

# 第10次 労働災害削減運動方針（改正）

平成23年4月1日  
(社)日本砕石協会

日本砕石協会では、砕石業に係わる労働災害の多発防止対策として、昭和57年度を初年度とする第1次労働災害半減運動をスタートさせ、昭和61年度からは第2次労働災害削減運動、以後、平成19年度からの第9次までの労働災害削減運動を実施してきた。

平成22年度からは、平成24年度までの3ヶ年を対象に第10次労働災害削減運動を実施しており、平成23年度はその中間年度となっている。

第10次労働災害削減運動を進めるにあたっては、砕石業における労働災害が長期的には減少傾向を示しているものの、依然、死亡等の重篤災害が発生し災害率の顕著な低下がみられない現状にあることから、中間年度にあたる平成23年度において、方針の大幅な見直し改正を行ったものである。

会員企業各位におかれては、危険予知訓練（KYT）、危険予知活動（KYK）等の自主的な労働災害防止活動の実施に努めると共に、死亡等の重篤災害防止に大きな効果のある手法として知られるリスクアセスメントの積極的な導入・推進に努めるなど、労働災害の防止に一丸となって取り組むことが必要である。

## 1. 労働災害削減の目標

- ① 死亡災害「ゼロ」を目指す。
- ② 災害率半減を目指す。

(参考) 平成16～22年度の災害発生状況

年 度	発生件数	死亡者数	災害率
平成16年度 実績	51	4	17.28
平成17年度 実績	62	3	22.03
平成18年度 実績	65	9	27.86
平成19年度 実績	58	5	24.73
平成20年度 実績	52	6	21.38
平成21年度 実績	45	8	21.54
平成22年度 実績	—	3	—
		平均	22.47

- (注) 1) 発生件数は、軽傷以上の災害件数を示す。  
2) 災害率は、稼働延べ百万人当たりの災害率を示す。

## 2. 労働災害防止対策

### (1) 対策の基本事項

- ① 企業トップによる全社的な安全意識の高揚運動を展開する。
- ② 安全な労働環境の整備と4S運動を推進する。
- ③ 安全管理体制の確立と安全教育の充実を図る。
- ④ 組織と個人が安全を最優先する「安全文化」を根付かせ、自主的に安全衛生対策が推進される仕組みを確立する。

### (2) 重点実施対策

特に、以下3点の重点実施に努める。

- ① 全員参加による充実したKY活動を実施する。
- ② リスクアセスメントの積極的な導入推進に努め、災害リスクの低減化を図る。
- ③ 「ベルトコンベヤ災害防止対策マニュアル」と「重機災害防止対策マニュアル」の活用により、類似災害の根絶を目指す。

さらに、以下について実施に努める。

- ④ 支部災害対策委員会の活性化、災害検討会、安全大会開催を推進する。
- ⑤ 自主安全衛生パトロールを実施する。（月初めの日を安全の日と定め、月1回以上、管理者、従業員を交えたパトロールを実施し、不安全個所の改善等の検討会を実施する。）
- ⑥ 従業員の健康管理と、高齢者のための安全な職場環境作りを推進する。
- ⑦ 関係官庁との連携強化を図る。（パトロール立会、教育の講師依頼や不断の連絡指導）
- ⑧ 上記諸対策の推進のために、会員、支部において安全管理体制を年度始めに見直し、年間安全管理教育計画を具体的に策定し実行する。

## 3. 砕石安全スローガン

- 無くそう重機災害！      重機の点検・安全運転
- 止めようプラント災害！   止めて行うプラント作業
- 防ごう切羽災害！      採取前後の安全点検